

ど、利用者マナーの次元の低さに腹立たしさを感ずるばかりである。

もちろん、このような利用マナーの悪い面ばかりではなく、アスファルト化され、自然の土を忘れかけた子供達が、花を植えたり、芝生に寝転がったり、ブランコ等の遊戯施設で嬉嬉として遊び廻っ

ている姿を見たり、公園の環境保全のため、熱心に除草、清掃等の愛護活動を続けている住民の姿を目にしたときは、もろもろの嫌なことも忘れ、安全な地域施設として管理する仕事への愛着を覚えるものである。

六——おわりに

今まで述べたように、管理者と利用者とは、その立場が異っている。そこで、今後に向けては出来る限り多くの機会を利用し、児童公園の管理に対する諸問題、利用上のマナー等について

住民との対話を持ち、管理者と利用者が一体となり、良好な公共施設としての保身に全力を注ぎたいものである。

〈緑政局南部公園緑地事務所管理係長〉

② 児童公園の清掃活動

伊賀山公園愛護会

小山内信之助

一——はじめに

国道十六号線の金沢八景を経て、六浦橋から大船・鎌倉に通じる道に大道小学校があります。この先五百メートルぐら

いの間を大道町内と呼び、県営アパートから朝比奈峠下までの国道をはさんだ両側の住宅地を、西大道町内会と呼んでいます。この住宅は、昭和十七年、旧海軍技術廠の工員住宅として建造された、団地のはしりでもありません。住宅の間に広場があって、コンクリートの立派な防火

用水が、何カ所もあり、避難訓練等に使用されてきました。

二——広場の利用

昭和二十八年町内会が組織され、広場は地域住民の憩いの場として、あるいはレクリエーションの場として広く利用されてきました。先に述べたように旧海軍が造成した土地ですので所有者の区分も不明のため、昭和四十一年土地の区画整理を行い、道路並びに広場を市に移管し

たわけです。そのとき広場は児童公園に造成されて、現在の伊賀山公園ができました。児童公園には、鉄棒、滑り台、二連シーン、二連ブランコ、ブレイステップ等が施設され、ポプラやつつじなどの樹木が植えられ、広場のときは異なった立派な公園になり、地元民が心から喜びがあったものです。

三——管理運営について

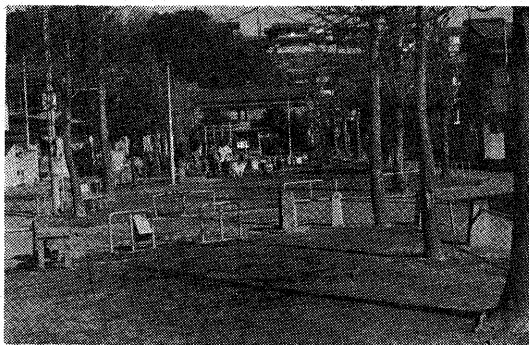
この伊賀山公園を管理するために、地

- 一——はじめに
- 二——広場の利用
- 三——管理運営について
- 四——希望意見

元住民で愛護会を結成、公園課の指導により運営していますが、今までの十数年間に事故もなくこられたことは、地域住民の協力と自分たちの公園だとの自覚によるものと思います。

現在西大道町内会には、約六五〇世帯が加入しており、清掃・草とりは町内会の婦人部、青少年部、それに婦人会、老人会などがそれぞれ行っています。町内会婦人部は、五班から成り、作業に参加するのは婦人部長、副部长を始め、各班の班長であり、班長は大きい班では二名

伊賀山公園



いるので合計一〇人になります。それに婦人会の一七人くらいを加えた人たちで、第一・第三木曜のグループと第二・第四木曜のグループに分れて、作業をするわけです。従って常に一五人前後は参加しており、普通は朝八時半頃から三〇分〜四〇分くらいで終わりますが、夏場の草の多いときや、秋口の枯葉が多いとき

などは、相談して別の日にも作業をしています。

また老人会には全員で一〇人くらい加入していますが、そのうち六人で「生きがい奉仕作業団」を結成して、月に四五回清掃作業をしています。奉仕作業団本部を通して、市から支給されるくまで、ほうき、スコップなどの作業道具を使用して、奉仕団の旗を掲げて作業をするわけです。時間は朝八時半頃から十二時頃まで、町内にある伊賀山公園、大道公園、杉の崎公園の三カ所を順番に回ります。この人たちの作業に対してはやはり市から報償金が支給されているようですが、作業を通じて皆が顔を合わすことができるといった気持ちの方が強いようです。奉仕団の問題としては、六人の他にも加わりたい人が何人かいても、予算都合などで加わることができないということも聞きました。

町内会の青少年部の作業は、主に子供たちによる日曜日の草とりが中心です。

日頃から遊び器具の点には特に目をく

ばって、子供たちに怪我のないようにと、あるいは遊び場に危険物が落ちていないか、ガラスの破片等はないかと、掃除には特に気をつけています。いちばん大変なことは、九月の声を聞く頃に落葉が舞い、風の吹くまま西に東に、大変なものです。風のやんだ夜などは、道路に落葉のジュニータンを敷いたようです。しかし想像えば、真夏の太陽の照りつけると、緑の木影で老人や子供たちの憩いの場所となっていたわけですから。

その他、家のまわりの草刈りや下水・側溝の清掃などを半年に一回くらい、夏場には三カ月に一回くらい、日曜日に全員いっせいにしています。このときはご主人方も多勢出てきています。

清掃作業については、四季を通じて一言の不満もありません。先にも述べたように、町内の人たちに自分たちの公園だという意識が強いため、皆一生懸命にやってくれるからです。

四——希望意見

天気の良い日には、小さい子供たちが、手に手に小道具を持って公園にくり出して来ます。大道公園、杉の崎公園には砂場があるのに、三公園の中では一番面積の大きい伊賀山公園には砂場がないため、固い土をあちらこちら掘り返して、砂遊びをしている状態です。

現在公園のはずれに屋根つきの「ちびっこプール」があります。プールといっても本当の幼児用で、三メートル四方、深さ三〇センチくらいの小さなものですが、シーズンオフには立入り禁止となっていて遊んでいる状態です。管理方法を検討して、この施設を有効に利用できるようにするか、できれば別に公園の一角に小さい砂場でもあればよいなあと日頃思っています。

最後に、金沢区には、市民の森も自然公園もありますが、小さな公園でも身近なところにあるほうが便利です。できるだけ小公園の設置に力を注いで下さるよう、地域の住民は希望しています。

〈金沢区西大道町内会愛護会会長〉